



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

レバノン：ベイルート南部にロケット弾攻撃

5月26日、ベイルート南部のヒズブッラーの影響力が強い地域に、ロケット弾2発が射ち込まれた。死者はなく、シリア人労働者4人が負傷した。ベイルートでは、シリアでの内戦が激化した後、小さな衝突や爆発事件はあったが、ロケット弾が使用されたのは、今回が初めてである。攻撃を声明はない。

ロケット弾攻撃の前日の25日には、ヒズブッラーのナスルッラー書記長は、イスラエル軍の南レバノン撤退13周年の会合でビデオ演説し、これまでになく明確に、シリア政府を支援すると表明していた。そのため、26日のロケット弾攻撃と25日のナスラッラー書記長演説は関係しているとの見方がある。

ヒズブッラーのナスルッラー書記長は、シリア内戦が激化した当初は、シリア問題の政治的な解決を呼びかけてきた。一方、シリア反体制派側は、ヒズブッラーの戦闘員がシリア政府側で戦っていると非難していた。2011年10月下旬、マナール・テレビのインタビューで、ナスルッラー書記長は、バッシュアール・アサド大統領が改革に向けて真剣に取り組んでいるとし、ヒズブッラーがシリアに戦闘員を送り込んでいるという事実はなく、捏造であると述べた。中東調査会のデータでは、ナスルッラー書記長は、その後も、政治的な解決を呼びかけている。同書記長の発言のトーンが変化したのは、2012年7月頃からである。シリア内の戦闘では、この頃、反体制派がダマスカスでの攻撃を開始している。7月18日、ナスラッラー書記長は、ダマスカスでの政府側の死者を同志と呼んだと報道された。米国財務省が、ヒズブッラーがシリア政府を支援しているとして、資産凍結など追加的な経済制裁を行ったのは2012年10月である。

最近のナスルッラー発言では、2013年4月30日に、シリア政府を軍事的に打倒することはできないとし、シリア政府側でシリア情勢に介入する用意があると述べていた。5月中旬からは、シリア政府軍が、レバノン国境に近いクサイル (Qusair) の奪回作戦を強化した。シリア反体制派側は、同戦闘にヒズブッラーが参戦していると非難している。5月20日、米国のオバマ大統領は、スレイマーン大統領と電話会談した。米NYT紙(22日)は、オバマ大統領は、スレイマーン大統領に、ヒズブッラーの戦闘員と武器のシリア入りを阻止するよう要請したと報道している。(スレイマーン大統領は、2008年5月に大統領に就任した。同大統領は、2009年12月にホワイトハウスを訪問してオバマ大統領と会談している。その後、

オバマ大統領が、スレイマーン大統領と電話会談したのは、中東調査会のデータでは、今回が初めてである)

レバノン政府は、一貫して、シリア情勢に距離を置く立場を取っている。5月24日、スレイマーン大統領は、ヒズブッラーにシリアへの関与を慎重にするよう要請している。26日、アラブ連盟のアラビー事務総長は、ベイルート南部へのロケット弾攻撃を非難しつつ、ヒズブッラーにシリア内戦介入の停止を要請した。しかし、レバノン政府が、シリア内戦と距離を取っているのは、建前上である。5月中旬から戦闘が激化しているクサイルは、シリア反体制派を支援するレバノン勢力が、反体制派への支援物資や武器を送り込む際に通過する町と見られている。レバノン内の反シリア勢力は、戦闘に参加しないとしても、武器や物資を送り込むことで、すでに内戦に関与している可能性が高い。

## 評価

シリア内戦が、周辺国に広がる場合、最も危ういのはレバノンであるといわれてきた。2013年5月、International Crisis Groupは、レバノンにいるシリア人は約100万人（避難民70万、出稼ぎ労働者）であり、レバノン国内の住民の4人に一人はシリア人だと推定している。北部のトリポリで、断続的にアラウィー派とスンナ派の戦闘が発生しているが、国内で戦闘が多発する事態には至っていない。レバノンで最強の軍事力を持つといわれるヒズブッラーが、シリアでの戦闘に関与するようになれば、レバノン国内での緊張感は、さらに高まるだろう。

ヒズブッラーが軍事力を保持しているのは、レバノン国内の理屈では、イスラエル軍と戦うためである。そのヒズブッラーが、シリア軍と一緒に、シリア反体制派と戦っているのであれば、ヒズブッラーは、その行動を、レバノン国民やアラブ世界に説明をする必要がある。すでにアラブ諸国やトルコなどから、ヒズブッラー非難が出ている。

(中島主席研究員)